

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00759

研究課題名（和文）授業内活動と自主学习を活性化する学習支援ツール群の中核となるデジタル教科書の開発

研究課題名（英文）Development of Digital Textbooks as the Core of Learning Support Tools to Encourage Classroom Activities and Self-Learning.

研究代表者

有富 智世（Aritomi, Chise）

常葉大学・外国語学部・教授

研究者番号：20410524

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：高等教育機関における初修フランス語のデジタル教科書（学習者用と指導者用）を開発した。デジタル教科書は、デジタル教材の学習コンテンツやeポートフォリオと連携し、デジタルノートや学習ガイド機能を備えている。その点で、オンライン授業を含めた様々な授業形態で柔軟な使用が見込める。指導者用デジタル教科書は、2023年4月より一般提供を開始し、学習者用デジタル教科書は、指導者用デジタル教科書の実践検証を経て、公開の予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高等教育を対象にしたデジタル教科書の研究は、初等・中等教育に比べて事例が少ない。大学等における授業内の学習活動や自主学习時における使用を鑑みた教育教材の開発は、いま求められるデジタル教科書のあり方を検討することに直結する。ICTの利便性・合理性といった特性を活かした多くの教材開発が進められ、どのようなデジタル教科書が実際の学習において有用性と有効性あるものとなるのか。本研究成果は、今後の教育のデジタル化推進で、言語を問わず、語学教育におけるデジタル教科書の凡例となり得る。

研究成果の概要（英文）：We have developed a set of digital textbooks (for learners and teachers) for beginners in the French language at the higher education level. The textbooks are linked to the learning content of digital teaching materials and e-portfolios and are also equipped with digital notebooks and study guide functions. In this respect, the textbooks are expected to be used flexibly in different formats, including online classes. The teacher's textbooks will be available for general use from April 2023, and the learner's textbooks will be released after the teacher's textbooks have been tested in the field.

研究分野：語学教育

キーワード：デジタル教科書 デジタル教材 eポートフォリオ 第二外国語 学習支援システム フランス語 オンライン授業 アクティブラーニング

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(1) 高度情報化社会に対応する「教育の情報化」において、文部科学省を中心にデジタル教科書をめぐる様々な検討がなされていた。しかし、主に初等・中等教育を対象としており、高等教育機関等におけるデジタル教科書やデジタル教材の開発は、具体的な事例が少ない状況だった。そこで、大学等における授業内での学習活動や自主学習時の使用を視野に入れたデジタル教科書の研究開発が必要と考えた。

(2) 初等・中等教育をデジタル教科書・教材で学んだ世代が、高等教育機関に進学してくる。教育の情報化に即応していくためにも、大学等の教育現場で求められるデジタル教科書のあり方を明確化することが肝要と考えた。ICTの利便性・合理性といった特性を活かし、高等教育に適した多くの教材開発が推進されることが重要であり、デジタル教科書の研究開発が学士教育の質保証の問題にも直結する課題と判断された。

2. 研究の目的

(1) 研究目的は、高等教育機関に適したICT活用の教材研究を行い、授業改善や自主学習促進を活性化し、学士教育の質保証にも繋げられるデジタル教科書の開発である。

(2) 本研究では、授業内外での学習時の活用を想定し、学習者と指導者(教員)の双方をサポートする「学習支援システム」、すなわち、紙媒体の教材・デジタル教材・eポートフォリオ・教育資料の提供からなる教育ツールの一体化の構築を目指した。そして、語学学習を支援するこれらツール群の中核となる「デジタル教科書」の具体化を探究し、本研究成果が語学教育におけるICT活用の教科書・教材開発として凡例となることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) デジタル教科書の開発では、先行研究成果物であるデジタル教材の特性を組み込む設計で想定した。関連づけるデジタル教材は、平成26～29年度、科研費研究課題(26370678)で開発した初修フランス語教育のためのeポートフォリオ連動型学習支援デジタル教材「Web〈なびふらんせ1/2〉」である。これに伴い、開発を目指すデジタル教科書は、フランス語文法基礎完成を支援する学習教材となるよう定めた。

(2) デジタル教科書の設計では、授業時と自主学習時の使用を想定して、デジタル教科書の見え方や操作、デジタル教材との繋がり等について、以下の①～⑧に配慮して検討した。

- ① 「(紙媒体)教科書」の利点と「デジタル教科書」の利点を融合させて学ぶことを前提とする
- ② 「(紙媒体)教科書」と「デジタル教科書」の内容は一致させる(学習者にとっての学び易さ)
- ③ 「デジタル教科書」から「デジタル教材」の学習コンテンツを使い能動的に学べる設定とする
- ④ デジタル教材のクラス設定機能を活用し、学習者間で学びの共有が図られる設定とする
- ⑤ 「デジタル教科書」画面のフランス語をクリック(タップ)で音声の確認を可能にする
- ⑥ 「デジタル教科書」画面にペン機能や付箋機能を用いて自由な書き込みを可能にする
- ⑦ 様々な学習ツールを束ねて中核となる「デジタル教科書」のあり方を授業実践で検証する
- ⑧ PC・スマートデバイス・スマートフォン等から同等の使用が可能な設定とする

(3) 学習者が様々な学習ツールを独自に活用して主体的・能動的な学びが行えるよう、学習教材の形態について考察し、応用的使用が見込める各種機能を開発した(例:「デジタルノート」機能の開発)。また、指導者(教員)においても、多様な授業形態でオリジナルな使用ができるよう、カスタマイズできる仕組みを検討した(「学習ガイド」機能の開発)。また、デジタル教科書は、学習者用と指導者用に分類し、使い手の目的に合った使用が望めるよう、各デジタル教科書の適切な形を探究した。

(4) 語学学習を異文化理解と繋げて学べるよう現地資料の拡充を行い、それらを効果的に使用するための表示方法や学習活用方法について検討した。同時に、デジタル教科書の利点である画面のスムーズな拡大と縮小、ペン機能、付箋機能、音声再生機能、リンクの有用的使用を併せて考慮し、「デジタル教科書」上での最適化を図った。

(5) デジタル教科書の開発では、基本となる「(紙媒体)教科書」の精査も行った。必要に応じて、ベースとなる「教科書」に修正を加え、学習者が「教科書」と「デジタル教科書」を効果的に併用して学べるよう、両者の相互関係を考察した。

(6) 語学教材の研究開発過程では授業実践を重ね、アンケート調査結果から精査を行った。

4. 研究成果

(1) 語学教育における ICT 活用の有効性からフランス語学習を支援するデジタル教材の開発に取り組んできた。「紙媒体教科書」と「デジタル教材」と「eポートフォリオ」の三位一体型教材の開発からデジタル教材「Web＜なびふらんせ 1/2＞」を研究成果物として一般公開している。そして、本デジタル教材の成果を発展させ、平成 30 年度からの本研究課題で「デジタル教科書」の開発を進めてきた。研究過程においては、学会等で成果を積極的に公表した。例を挙げると、学習環境の整備、デジタル教材を用いた授業実践報告、授業内外でのデジタル教材の活用、eポートフォリオと評価、デジタル教科書のあり方や設計、デジタル教科書制作に関わる共同研究の方策、デジタル教科書(検討モデル)の試作などである。研究成果を報告する中で、語学教育の専門家から開発に関わる多くの示唆を得た。その結果、「デジタル教科書(学習者用・指導者用)」の確定に至った。

(2) 初修フランス語用の教科書に対応するデジタル教科書は、以下の4種類を開発した。

教科書『なびふらんせ 1』に対応するデジタル教科書「なびふらんせ 1 (学習者用)」

教科書『なびふらんせ 1』に対応するデジタル教科書「なびふらんせ 1 (指導者用)」

教科書『なびふらんせ 2』に対応するデジタル教科書「なびふらんせ 2 (学習者用)」

教科書『なびふらんせ 2』に対応するデジタル教科書「なびふらんせ 2 (指導者用)」

開発した「デジタル教科書」は、高等教育機関での語学学習を効果的かつ効率的に進めるための語学学習支援教材である。授業内外で学習者と指導者(教員)の双方をサポートし、授業改善や自主学習促進を活性化させる「学習支援システム(教育ツールの一体化)」を具体化した。したがって、研究目的のとおり、語学学習を支援するツール群の中核となる「デジタル教科書」の実現に至った。

(3) 開発した「デジタル教科書」は、現在、文部科学省 HP で公表しているデジタル教科書のあり方やガイドラインと基本的に合致している。検証には、「教育進化のための改革ビジョン」、「学習者用デジタル教科書について」、「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン(改訂版)」等を参照した。これらは、主に初等・中等教育を対象として記載がなされているが、大学等における初修言語教育の「デジタル教科書」開発においては、十分に基準の目安となり得るだろう。

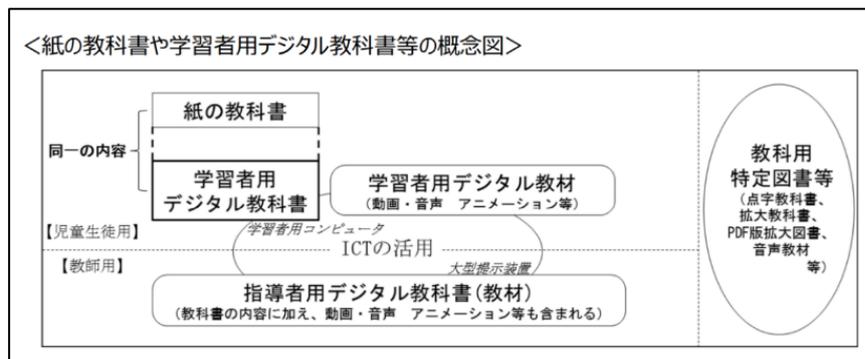
① 文部科学省は、「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン(改訂版)」で次のように記載している。(※以下、引用)

学習者用デジタル教科書として ICT の特性・強みが生かされることにより、学習者用デジタル教科書をプラットフォームとして多様な ICT を関連付けて捉え、授業全体の流れの中で紙とデジタルを適切に組み合わせることで、授業研究・指導計画の充実や見直しのきっかけとなることが期待される。

開発した「デジタル教科書」は、以上の引用内容と合致している。

② 文部科学省は「学習者用デジタル教科書について」において概念図を添え、デジタル教科書の定義を次のように記載している。(※以下、引用)

デジタル教科書とは、「紙の教科書」の内容の全部をそのまま記録した「電磁的記録」である教材を指す(※電磁的記録に記録することによって変更が必要となる内容を除く)。また、紙の教科書と同一の内容がデジタル化された教材、教科書発行者が作成するもの。



以上の引用から、紙媒体の「教科書」と「デジタル教科書」は基本的に同一の内容であり、学習者用デジタル教科書にデジタル教材が紐づけられ、さらに指導者用デジタル教科書を備えて、これらが一体的に使用されることで教育効果が見込めることを示している。開発した「デジタル教科書」は、以上の内容と合致している。

③ 文部科学省は「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン(改訂版)」において、デジタル教科書導入の利点を記載している。(※以下、引用の要約)

学習理解への補助(ページ番号の入力等により教科書の内容[目的のページ]へのアクセスを

容易にする)、教室での教科書画面提示における有用性(デジタル教科書では学習箇所を拡大表示でき、解答に至る考え方を隠して表示することもできる)、写真や図画等を細部まで見る学習効果(デジタル教科書では写真資料、挿絵、地図、グラフ等の細部を拡大でき、様々な角度から調べることができる)、試行錯誤する学習効果(デジタル教科書には躊躇せずにペン等で書き込みを繰り返し行うことができ、試行錯誤しながら思考する力を養える)、学習内容の習熟の程度に応じた学習の提供(外国語のネイティブスピーカーの音声等を教科書の本文に同期させつつ使用することで、個々の習熟度に合わせた速度変更や特定箇所の再生を繰り返し行える)、教科書に関連付けた動画・アニメーション等の使用で、理解できない部分を個別に繰り返し視聴して確認できる(教科書学習内容に関連付けたドリルやワークシート等の使用で、個々の習熟度に合わせた練習問題に取り組める)、共有・協働する学びの補助(デジタル教科書への書き込み等で自分の考えを可視化し、他者にも示して説明できる。また、学習者間で互いの書き込みを共有して協働学習に活かせる)、学習過程や習熟度の把握(学習履歴の記録から学習内容の習熟度を把握して支援でき、評価においても活用できる)。

開発した「デジタル教科書」は、以上の引用で確認した利点を満たすものである。

(4) 令和2年度、コロナ禍での授業実施対策として、オンライン授業が一斉に導入された。所属機関である常葉大学においても、教科書『なびふらんせ 1/2』とデジタル教材「Web<なびふらんせ 1/2>」を活用して、急速、オンライン授業を試みることとなった。本デジタル教材は、授業内外での使用に配慮して開発した教材だが、そもそも対面授業における質的向上と改善をベースに設計したものである。初修外国語学習をオンラインで実施し、質的にも保証するには、教科書とデジタル教材をどのように繋げて学習させることが有効か、どのような工夫が求められるのかの検討に迫られた。授業実践を経て、教材間の繋がりを明瞭にする学習指導教材の重要性、遠隔授業における反転授業の有効性、フィードバックの大切さ、eポートフォリオの有用性も再確認することができた。そこから、オンライン授業に適合させた教科書・教材の活用方法や提供方法、既存の情報システムツールを用いた方策など、様々な検討が行えた。その結果、オンライン授業から得られた知見をデジタル教科書の開発に反映し、「デジタル教科書+デジタル教材」に「学習ガイド」機能を組み込み、指導者(教員)各自のオリジナリティを反映した媒体にするという着想を得た。

(5) 「学習ガイド」機能とは、Microsoft 等が提供する「Web ベースの学習支援ツール」との紐づけが可能で、「紐づけられたツールを用いてどのように学べばよいか」を学習者に明示する Web ページのイメージである。例えば、OneDrive 上のファイルやフォルダ、Stream 上で公開されている動画コンテンツ、Forms で作成した設問、Teams にセットした Web 会議やチャンネル、Class Notebook 内のノート等は、リンクによるアクセスが可能なため、指導者(教員)は必要に応じてこれらのリンクを「学習ガイド」内に配置する。学び方の解説も記載でき、学習支援ツールの繋がりを学習者へ明示できるものとなる。(※以下のようなツールとの紐づけが可能である)

- ・クラウド上のストレージサービス (例: OneDrive・GoogleDrive・Dropbox)
- ・動画コンテンツ共有サービス (例: YouTube・Stream)
- ・オンライン会議ツール (例: Zoom・Teams・Google Meet)
- ・オンラインで小テスト等を実施するためのサービス (例: Microsoft Forms・Google Forms)
- ・情報整理&共有ツール (例: OneNote・Scrapbox・Stock)
- ・LMS 他 (例: Google Classroom・各大学の LMS およびポータルサイト等)

(6) 開発した「デジタル教科書」は、「学習ガイド」機能の搭載により、学習者は「紙媒体の教科書」と「デジタル教科書」を効果的に繋げて学べ、指導者(教員)は授業研究・指導計画の充実や見直しを適切に行える設計となった。コロナ禍において、ICT を活用した様々なツール・サービス・環境が広く利用されるようになり、教育機関における情報機器使用の基底は、これまでの想定とは異なるスタンダードがにわかに成立した。今後は、対面授業・オンライン授業・ハイブリッド型・ハイフレックス型等、どのような授業形態でも効果的使用が見込める教材・教具・環境等が求められる時代となる。文部科学省が提言する「デジタル教科書をプラットフォームとして多様な ICT を関連付ける」点で、「学習ガイド」機能の登載により、異なる LMS で授業を担当する指導者(教員)が、デジタル教科書をいわばプラットフォームとしてクラスの授業に合わせたカスタマイズを行える。今後に求められる教材の開発において、コロナ禍での授業実践から多くのヒントが得られたことは確かである。

【『なびふらんせ』第6課 学習ガイド】	
内容	
①	以下のリンクをクリックし、学習を進めていきましょう 課題についても指示がありますので、提出期限には注意してください
②	・(Web教材L6>写真と動画)美術館の写真や動画を見ましょう ・美術館のチケット売り場での会話を聴きましょう (教科書: p. 36参照) 》美術館の写真や動画 》チケット売り場での会話
③	・課題: ①の会話を練習し、「Reading Progress」を使って音声を録音してください【制限回数なし】 ※提出期限: 6月20日(月) 18:00 》Teamsの「Reading Progress」△ 》参考: 「Reading Progress」の解説 (YouTube)
この課では①形容詞、②指示形容詞、③所有形容詞を学習します	

(7) 文部科学省は、大学教育のデジタルライゼーションについてもすでに活性化を図っている。高等教育機関でもデジタル教科書の導入が順次なされていくことは必然といえる。デジタル教科書の普及を進めていくために、令和5年4月より、デジタル教科書「なびふらんせ1（指導者用）」の提供を開始した。指導者用のため、申請者はデジタル教材「Web〈なびふらんせ〉」に教員ID登録後、そこから申請手続きを行って提供を受ける形式とした。デジタル教科書「なびふらんせ1（学習者用）」については、令和5年度に指導者用での実施状況を精査した上で、令和6年度に予定している。また、デジタル教科書「なびふらんせ2（学習者用・指導者用）」についても同様に、順次、提供していく。開発した「デジタル教科書（指導者用）」の一般提供では、効果的な教材の利活用のために、デジタル教科書・学習ガイド機能・デジタルノート等に関する各種マニュアルを制作して付帯した。

(8) 開発した「デジタル教科書」は、一斉授業のみならず、個別学習にも最適かつ効果的に利用できる。自主的な学びを促進し、高い学習成果が期待できる。そこで、今後の研究課題の一つとして、学習者が「(紙媒体)教科書」と「デジタル教科書」をどのように効果的に併用して学ぶかを考察したい。そこから新たに「デジタル教科書」の再検討が行えると見なしている。さらに、文部科学省が令和2年末に報告した「教育進化のための改革ビジョン」の「2. 具体的な内容」の項目で記載している以下の内容に注目したい。

個々の可能性を最大限に引き出す教育、「リアル」×「デジタル」の最適な組合せによる価値創造的な学びの推進、個別最適な学びと協働的な学びの日常化、「リアルな体験」機会の充実。

これらを可能にすることが、デジタル教科書の開発においては指針となる。今後の展望としては、「リアル」×「デジタル」の最適な組み合わせをどのような形で実現化していくか。VRの導入やアバター、メタバースを用いたコミュニケーション能力の養成など、それらとデジタル教科書・教材の関係性や他の学習ツールとの繋がりを考察し、デジタル教科書・教材を改めて検討していきたい。

(9) 今後の日本における語学教育は、対面指導とオンライン教育がハイブリット化した形で協働的学びが展開する。ポスト・コロナ時代の教育手法の具体化、デジタル技術を駆使した高等教育の高度化が目指される。高い学習成果の達成と自発的な学びや気づきの効果的な誘導等の考察において、本研究成果はICT活用の教科書・教材開発例となる。

<引用文献>

①有富智世、喜久川功、黒田恵梨子、田母神須美子、服部悦子、『なびふらんせ1』、株式会社朝日出版社、2016

②有富智世、喜久川功、安藤博文、内田智秀、服部悦子、『なびふらんせ2』、株式会社朝日出版社、2019

③有富智世、喜久川功、フランス語学習支援デジタル教材「Web〈なびふらんせ1/2〉」、<http://navifr.sz.tokoha-u.ac.jp/>

④教育進化のための改革ビジョン(MEXT)
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1413767_00007.htm

⑤学習者用デジタル教科書について(MEXT)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm

⑥学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン(令和3年3月改訂版)(MEXT)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/139/houkoku/1412207_00001.htm

⑦文部科学省におけるデジタル化推進プラン(MEXT)
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/1410537_00001.htm

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 喜久川功, 有富智世	4. 巻
2. 論文標題 初修フランス語デジタル教科書と連携するクラスノート機能の開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育システム情報学会第47回全国大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 191-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 有富智世, 喜久川功	4. 巻 37(2)
2. 論文標題 初修フランス語デジタル教科書と連携するクラスノート機能の構想	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育システム情報学会研究報告	6. 最初と最後の頁 113-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 有富智世, 喜久川功, 内田智秀, 服部悦子	4. 巻 36
2. 論文標題 フランス語デジタル教科書(教員版)を用いた授業方法の多様性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西フランス語教育研究会, RENCONTRES	6. 最初と最後の頁 35-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 喜久川功, 有富智世	4. 巻 36(6)
2. 論文標題 外国語学習用デジタル教科書・教材を用いたクラス運営を支援する学習ガイド機能の実装	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育システム情報学会研究報告 36(6)	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜久川功, 有富智世	4. 巻
2. 論文標題 効率的かつ効果的な授業運営を可能にする初修フランス語指導者用デジタル教科書の開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育工学会 2022年春季全国大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 263-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜久川功, 有富智世	4. 巻
2. 論文標題 外国語学習用デジタル教科書・教材を用いた遠隔学習の運営を支援する学習ガイド機能の設計	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育システム情報学会 第46回全国大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 199-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有富智世・喜久川功・内田智秀・服部悦子	4. 巻 35
2. 論文標題 オンライン授業とデジタル教材 授業実践報告と展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西フランス語教育研究会, RENCONTRES	6. 最初と最後の頁 55-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜久川功, 有富智世	4. 巻 35(6)
2. 論文標題 外国語学習・デジタル教科書を用いた遠隔授業支援と学習ガイド機能の構想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育システム情報学会研究報告	6. 最初と最後の頁 181-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有富智世, 喜久川功	4. 巻 35(5)
2. 論文標題 外国語学習のためのデジタル教科書とカスタマイズ機能	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育システム情報学会研究報告	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有富智世, 喜久川功, 安藤博文, 内田智秀, 服部悦子, 山田敏之	4. 巻 33
2. 論文標題 フランス語教育におけるデジタル教材の活用 授業実践報告と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西フランス語教育研究会, RENCONTRES	6. 最初と最後の頁 57-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有富智世, 喜久川功	4. 巻 34(4)
2. 論文標題 フランス語Web教材の学習活動支援ツール 写真描写問題とアクティブラーニング	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育システム情報学会研究報告	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有富智世, 喜久川功, 安藤博文, 内田智秀, 服部悦子, 山田敏之	4. 巻 32-2
2. 論文標題 授業内活動と自主学習を活性化する学習支援ツールの一体化 - デジタル教科書・デジタル教材・eポートフォリオ・教材ダウンロード -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西フランス語教育研究会, RENCONTRES	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜久川功, 有富智世	4. 巻 第43回
2. 論文標題 初修フランス語のデジタル教材における学習活動支援「メッセージ機能」の設計	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育システム情報学会第43回全国大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 179-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有富智世, 喜久川功	4. 巻 JSET 18-4
2. 論文標題 フランス語の基礎力検証に有効なデジタル教材のeポートフォリオ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育工学会研究報告集	6. 最初と最後の頁 49-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 有富智世, 喜久川功, 内田智秀, 服部悦子, 山田敏之
2. 発表標題 文部科学省における教育DX推進とフランス語「学習者版デジタル教科書」の検証
3. 学会等名 関西フランス語教育研究会 (第37回大会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 有富智世, 喜久川功, 内田智秀, 服部悦子
2. 発表標題 フランス語デジタル教科書 (教員版) を用いた授業方法の多様性
3. 学会等名 関西フランス語教育研究会 (第36回大会) (オンライン開催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 喜久川功, 有富智世
2. 発表標題 外国語学習用デジタル教科書・教材を用いたクラス運営を支援する学習ガイド機能の実装
3. 学会等名 教育システム情報学会 2021年度第6回研究会 (オンライン開催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 喜久川功, 有富智世
2. 発表標題 効率かつ効果的な授業運営を可能にする初修フランス語指導者用デジタル教科書の開発
3. 学会等名 日本教育工学会 2022年春季全国大会 (オンライン開催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 喜久川功, 有富智世
2. 発表標題 外国語学習用デジタル教科書・教材を用いた遠隔学習の運営を支援する学習ガイド機能の設計
3. 学会等名 教育システム情報学会 第46回全国大会 (オンライン開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有富智世, 喜久川功, 内田智秀, 服部悦子
2. 発表標題 オンライン授業におけるフランス語学習支援デジタル教材の活用 授業実践報告と展望
3. 学会等名 関西フランス語教育研究会 (第35回大会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 喜久川功, 有富智世,
2. 発表標題 外国語学習・デジタル教科書を用いた遠隔授業支援と学習ガイド機能の構想
3. 学会等名 教育システム情報学会, 第6回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有富智世, 喜久川功
2. 発表標題 外国語学習のためのデジタル教科書とカスタマイズ機能
3. 学会等名 教育システム情報学会, 第5回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有富智世・喜久川功
2. 発表標題 フランス語Web教材の学習活動支援ツール - 写真描写問題とアクティブラーニング
3. 学会等名 教育システム情報学会 (第4回研究会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有富智世・喜久川功
2. 発表標題 フランス語学習支援教材「写真描写問題」 試作と運用
3. 学会等名 e-Learning教育学会 (第18回研究大会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 有富智世・喜久川功・内田智秀・服部悦子
2. 発表標題 フランス語教育とICT活用 アクティブラーニング導入のために
3. 学会等名 関西フランス語教育研究会（第34回大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 喜久川功, 有富智世
2. 発表標題 初修フランス語のデジタル教材における学習活動支援「メッセージ機能」の設計
3. 学会等名 教育システム情報学会（第43回全国大会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有富智世, 喜久川功
2. 発表標題 フランス語の基礎力検証に有効なデジタル教材のeポートフォリオ
3. 学会等名 日本教育工学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有富智世, 喜久川功
2. 発表標題 共有可能な授業実践と自主学習を想定したICT活用の「語学教育・教材開発」と方策
3. 学会等名 e-Learning教育学会（第17回研究大会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有富智世, 喜久川功, 内田智秀, 服部悦子, 山田敏之
2. 発表標題 フランス語教育におけるデジタル教材の活用 -授業実践報告と展望-
3. 学会等名 関西フランス語教育研究会 (第33回大会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 有富智世, 安藤博文, 喜久川功, 内田智秀, 服部悦子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 株式会社朝日出版社	5. 総ページ数 86
3. 書名 なびふらんせ2 - フランス世界遺産をめぐる -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	喜久川 功 (Kikukawa Isao) (10440611)	常葉大学・社会環境学部・准教授 (33801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------